

太平洋と日本海に面し、
多様な生物を育んできた
自然環境

八雲町の地形は、標高800〜900m級以上の山々が南北に連なる渡島山地を挟んで、東の太平洋側には遊楽部川、野田追川、落部川が流れ、下流へ向かって丘陵地や低地が形成されています。また、西の日本海側には平田内川、見市川、相沼内川が流れ、海岸線近くまで山地が迫り、海蝕崖と海岸段丘が連なる中に奇岩が見られます。

太平洋側の気候は、津軽海峡を抜ける暖流の影響を受けて冬でも雪が少なく、北海道の中でも温暖な地域に属しています。しかし、盛夏でも気温が30度を超える日は少なく、霧が発生して涼しい日が多く見られます。こうした自然条件を活かして、八雲地域では早くからヨーロッパに学ぶ近代酪農が導入されてきました。一方、日本海側の気候は対馬暖流の影響で、夏は晴天の日が多く気温も高めですが、冬は季節風の影響で風が強くと波が高くなります。

清流として知られる遊楽部川は、ダムや堰が建設されていない自然の姿を保っています。道南有数の流域面積を持ち、豊かな農業地帯を形成しています。初冬に遊楽部川の固有種として知られる、体高が高い大型の「鼻曲がり」サケが遡上し、自然産卵をします。さら

に、産卵後のサケの死骸を狙って、北方から天然記念物のオオワシやオジロワシが飛来して越冬します。八雲町ではこうした自然の営みを、市街地からわずか数キロ先へ足を伸ばすと、比較的簡単に観察することができま

でもある雄鉾岳がそびえ、晴れた日には遠く遊楽部岳も望めます。郊外の湿原では春になると野生の草花が一齐に開花し、近郊の山野では山菜採りが楽しめます。



●内浦湾（噴火湾）

直径約40km、周囲約160km。18世紀後半に来航した英国船プロビデンス号の船長プロトンが、湾を囲んで噴煙を上げる駒ヶ岳や有珠山などを見て噴火湾と命名。水深は最深部でも100m程度。冬は波が穏やかで、水産資源に恵まれている。



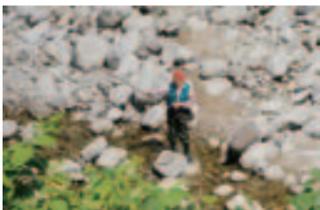
●雲石峡

熊石地域と八雲地域を結ぶ国道277号を走ると、見市川上流の渓谷景観や、雲石峠の脇にそびえる雄鉾岳など、急峻な山並みを見ることができ。特に秋にはブナやダケカンバの織りなす紅葉の名所として、道南八景の一つに数えられる。



●鮭誕橋（けいたんばし）

遊楽部川支流のセイヨウベツ川に架かる鮭誕橋。このあたりから上流部には湧水が多く、橋の名とおりサケの自然産卵が行われる。立栄橋、建岩橋とともにサケの生態がよく観察できる。自然繁殖するサケが多い遊楽部川では、他の野生魚の産卵も多く、ウグイの産卵時期は婚姻色の朱色の群泳なども見られる。



●平田内川の溪流釣り

日本海に注ぐ平田内川にはイワナなどが生息し、渓谷の上流部まで釣り人が足を運ぶ。上流部には秘境の露天風呂「熊の湯」もある。



●相沼内川

ヤマメやイワナの好ポイントが多く、上流の相沼内ダムは「日本の近代土木遺産～現存する重要な土木構造物2,000選」に選定。



●鮎川海岸

砂浜や玉石を敷き詰めたような白い海岸が約6kmにわたって続く景勝地。夏は磯遊びや海水浴場として、冬から初春はサクラマス釣りの好ポイントとして知られる。



●遊楽部川（ユーラップ川）

長さ28.5km、多数の支流が流れ込み、道南有数の流域面積を持つ。ユーラップの語源はアイヌ語で「温泉が流れ下る」という意味。流域は温泉や地熱資源に恵まれている。毎年約10万匹のサケが遡上し自然産卵する。アユの生息は太平洋側の北限、シシャモは南限の河川。



●オオワシとオジロワシ

遊楽部川流域では、冬になると産卵後のサケを目当てに国の天然記念物のオオワシ・オジロワシが飛来し、雄大な姿を観ることができる。



●山菜採り

散歩やドライブがてら、身近なところで山菜採りが楽しめる。春にはウド、タケノコ、フキ、ギョウジャニンニク、秋にはキノコなど。



●日本海の夕日

奥尻島を垣間見ながら、日本海へ沈む夕日が美しい。八雲の人々は“世界の夕日”という。



●雄鉾岳（おぼこ岳）

標高999.3mの八雲を代表する山。急峻な稜線を持ち、登山は中上級者向き。山頂手前の海見平からは日本海と太平洋を一望できる。



●遊楽部岳

標高1,277m、八雲の最高峰。山頂からは渡島半島を一望。周辺では、1,300〜500万年前の八雲層などの地層を観察できる。

八雲の自然の魅力



●町外者インタビュー
加藤孝幸さん
アースサイエンス株式会社代表取締役

先祖は4代前に愛知県から八雲に入植して、代々農業を営んできました。実家の酪農は弟が継いでいます。ガス（霧）の中で牛群が草を食む景色は忘れられません。私の会社は地質コンサルタント業ですが、普通の地質調査会社がありません。最近地熱開発関連やコンクリートの劣化診断なども増えています。

渡島半島は幕末に日本で最初に地質図が作成された地域です。幕府が米国人技師ブレイクらを招き、ユーラップ川流域を中心に八雲鉱山、山越の油徴や熊石の海岸を含む渡島半島各地を踏

噴火湾は八雲から一望できますが、実はこの湾は深いクレーター状の大きな窪みに泥や砂などの軽い物質がたまって浅い海灣がどのようにしてできたのか。知的好奇心が刺激されますね。

八雲を出て八雲の地形・地質・風土・歴史はとも素晴らしいものであることにあらためて気づきました。これらを、来町者も町民も楽しめるよう工夫して、町の発展に積極的に活用していただきたいと思います。